

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月13日

【四半期会計期間】 第11期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 日本リーテック株式会社

【英訳名】 NIPPON RIETEC CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田邊 昭治

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田錦町一丁目6番地

【電話番号】 03(6880)2713

【事務連絡者氏名】 取締役 財務部長 澤村 正彰

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町一丁目6番地

【電話番号】 03(6880)2713

【事務連絡者氏名】 取締役 財務部長 澤村 正彰

【縦覧に供する場所】 日本リーテック株式会社 中央支店

(千葉県松戸市上本郷701番地)

日本リーテック株式会社 横浜支店

(神奈川県横浜市磯子区磯子一丁目4番3号)

日本リーテック株式会社 仙台支店

(宮城県仙台市宮城野区岩切分台一丁目8番地の6)

日本リーテック株式会社 中部支社

(愛知県あま市上菅津北ノ川47番地)

日本リーテック株式会社 関西統括支店

(大阪府大阪市北区本庄西二丁目21番4号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 上記の仙台支店及び関西統括支店は、法定の縦覧場所ではないが、投資家の便宜を考慮し、縦覧に供する場所としている。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第1四半期 連結累計期間	第11期 第1四半期 連結累計期間	第10期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	9,019,320	12,237,107	57,524,598
経常利益又は経常損失() (千円)	20,222	264,951	4,835,718
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は親会社 株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	27,126	153,275	3,349,988
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	292,443	34,208	3,291,918
純資産額 (千円)	46,266,784	48,746,945	49,266,070
総資産額 (千円)	68,469,703	71,281,577	76,880,845
1株当たり四半期(当期) 純利益又は四半期純損失() (円)	1.08	6.09	133.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	67.6	68.4	64.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものである。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産において弱含み傾向が見られたが、雇用・所得環境の改善が続く中、企業収益は総じて良好な水準を維持しており、景気は緩やかな回復基調で推移した。一方で、米中通商摩擦の深刻化や中東情勢の緊迫化などにより、先行きに一段と不透明感が増しており、引き続き留意が必要な状況となった。

このような状況の中、当社グループは合併から10年の節目を経過した今年度、「安全」「ガバナンス」「人材育成」を主要な戦略課題とする、新たな中期経営計画「Challenging RIETEC 2021」をスタートさせ、グループの持続的成長に努めた。

当第1四半期の連結業績については、受注高は99億1千7百万円（対前年同期比12.9%減）、売上高は122億3千7百万円（対前年同期比35.7%増）となった。

利益は、1億4千5百万円の営業利益（前年同期は1億6千2百万円の営業損失）、2億6千4百万円の経常利益（前年同期は2千万円の経常損失）、1億5千3百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期は2千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となった。

セグメントの業績は次のとおりである。

(電気設備工事業)

電気設備工事業については、受注工事高は99億1千7百万円（対前年同期比12.9%減）、完成工事高は115億4千3百万円（対前年同期比39.2%増）、営業利益は7億9千4百万円（前年同期は5億2百万円の営業利益）となった。

[鉄道電気設備部門]

鉄道電気設備工事については、東日本旅客鉄道株式会社の安全・安定輸送に伴う設備更新工事等により、受注工事高は59億4百万円、完成工事高は60億7千9百万円となった。

[道路設備部門]

道路設備工事については、高速道路会社各社の標識工事・電気通信工事、警視庁及び各警察本部の交通信号機工事等により、受注工事高は22億7千7百万円、完成工事高は10億2百万円となった。

[屋内外電気設備部門]

屋内外電気設備工事については、官公庁施設・商業施設・銀行関連施設等の電気設備新設・改修工事、民間事業者による太陽光発電設備工事等により、受注工事高は5億4千2百万円、完成工事高は32億3千3百万円となった。

[送電線部門]

送電線工事については、電力会社各社の架空送電線路工事、通信事業会社各社の情報通信工事により、受注工事高は11億9千3百万円、完成工事高は12億2千7百万円となった。

(兼 業 事 業)

兼業事業については、主に鉄道及び道路標識、電設資材、交通安全用品の販売等により、売上高は5億8千5百万円(対前年同期比5.9%減)、営業利益は2千万円(前年同期は5千7百万円の営業利益)となった。

(不 動 産 賃 貸 事 業)

不動産賃貸事業については、主にオフィスの賃貸等により、売上高は1億8百万円(対前年同期比2.0%増)、営業利益は4千5百万円(前年同期は3千9百万円の営業利益)となった。

(注)当社は、セグメント利益について、各セグメントの営業利益としている。

財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産については、前連結会計年度末に比べ55億9千9百万円減少し、712億8千1百万円となった。(未成工事支出金で14億5千1百万円の増加、受取手形・完成工事未収入金等で72億8千3百万円の減少)

負債については、前連結会計年度末に比べ50億8千万円減少し、225億3千4百万円となった。(未払法人税等で14億8千2百万円の減少、支払手形・工事未払金等で12億2千8百万円の減少、未成工事受入金で8億7千1百万円の減少)

純資産については、前連結会計年度末に比べ5億1千9百万円減少し、487億4千6百万円となった。(利益剰余金で4億円の減少、その他有価証券評価差額金で1億3千8百万円の減少)

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はない。

(3) 研究開発活動

当社グループにおいて、新技術の開発・改善及び安全作業の向上に関する業務改善等を目的として研究開発活動を行っている。

当第1四半期連結累計期間における固定資産に計上した研究開発活動費の総額は3百万円である。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,617,717	25,617,717	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株である。
計	25,617,717	25,617,717		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日		25,617,717		1,430,962		649,201

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

2019年3月31日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 466,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,136,500	251,365	
単元未満株式	普通株式 15,117		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	25,617,717		
総株主の議決権		251,365	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が9,000株(議決権90個)含まれている。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式98株が含まれている。

【自己株式等】

2019年3月31日現在					
所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本リーテック株式会社	東京都千代田区神田錦町 一丁目6番地	466,100		466,100	1.82
計		466,100		466,100	1.82

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	8,274,719	8,660,881
受取手形・完成工事未収入金等	32,589,593	25,305,660
未成工事支出金	804,345	2,256,199
商品及び製品	50,456	52,633
仕掛品	4,079	4,350
材料貯蔵品	298,344	284,771
その他	986,873	1,079,476
貸倒引当金	155	-
流動資産合計	43,008,258	37,643,972
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	8,826,137	8,721,761
機械・運搬具（純額）	249,462	251,061
工具器具・備品（純額）	282,464	302,883
土地	7,592,712	7,618,174
リース資産（純額）	1,014,939	988,347
建設仮勘定	161,446	177,738
有形固定資産合計	18,127,163	18,059,966
無形固定資産		
無形固定資産	168,712	164,630
投資その他の資産		
投資有価証券	14,926,416	14,732,561
その他	665,798	695,951
貸倒引当金	15,505	15,505
投資その他の資産合計	15,576,710	15,413,007
固定資産合計	33,872,586	33,637,604
資産合計	76,880,845	71,281,577

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	10,287,205	9,058,501
未払法人税等	1,528,517	46,255
未成工事受入金	2,010,805	1,139,369
完成工事補償引当金	2,298	8,689
工事損失引当金	113,718	122,862
賞与引当金	1,700,465	461,477
その他	5,227,456	4,982,289
流動負債合計	20,870,468	15,819,445
固定負債		
退職給付に係る負債	5,401,152	5,402,887
役員退職慰労引当金	30,287	23,480
その他	1,312,866	1,288,818
固定負債合計	6,744,305	6,715,186
負債合計	27,614,774	22,534,631
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,430,962	1,430,962
資本剰余金	3,205,423	3,205,423
利益剰余金	42,411,590	42,011,532
自己株式	343,016	343,016
株主資本合計	46,704,960	46,304,901
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,639,190	2,500,603
退職給付に係る調整累計額	78,079	58,559
その他の包括利益累計額合計	2,561,110	2,442,043
純資産合計	49,266,070	48,746,945
負債純資産合計	76,880,845	71,281,577

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	9,019,320	12,237,107
売上原価	8,051,794	10,952,446
売上総利益	967,526	1,284,660
販売費及び一般管理費	1,130,459	1,139,153
営業利益又は営業損失()	162,932	145,506
営業外収益		
受取利息	225	193
受取配当金	85,447	91,937
物品売却益	19,022	17,101
持分法による投資利益	21,266	9,253
その他	24,839	8,154
営業外収益合計	150,800	126,640
営業外費用		
支払利息	5,418	6,894
その他	2,671	301
営業外費用合計	8,090	7,195
経常利益又は経常損失()	20,222	264,951
特別利益		
固定資産売却益	657	-
特別利益合計	657	-
特別損失		
固定資産除売却損	1,981	10,561
減損損失	-	72,530
損害賠償金	9,313	-
特別損失合計	11,295	83,091
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	30,860	181,860
法人税、住民税及び事業税	9,522	17,739
法人税等調整額	13,256	10,846
法人税等合計	3,733	28,585
四半期純利益又は四半期純損失()	27,126	153,275
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	27,126	153,275

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	27,126	153,275
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	321,546	130,432
退職給付に係る調整額	11,793	19,519
持分法適用会社に対する持分相当額	9,817	8,154
その他の包括利益合計	319,570	119,067
四半期包括利益	292,443	34,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	292,443	34,208
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

下記の銀行借入金について保証を行っている。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
従業員の福利厚生制度による 住宅融資	4,259千円	3,619千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間に工事の完成引渡しが集まるため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
減価償却費	226,642千円	246,450千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	452,730	18.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がない。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	553,333	22.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	電気設備 工事業	兼業事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,291,179	621,433	106,708	9,019,320		9,019,320
セグメント間の内部売上高 又は振替高		345,680	11,785	357,465	357,465	
計	8,291,179	967,114	118,493	9,376,786	357,465	9,019,320
セグメント利益又は損失()	502,103	57,835	39,539	599,478	762,411	162,932

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額 762,411千円には、セグメント間取引消去4,549千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 766,960千円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	電気設備 工事業	兼業事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,543,189	585,048	108,868	12,237,107		12,237,107
セグメント間の内部売上高 又は振替高		282,488	11,225	293,713	293,713	
計	11,543,189	867,536	120,094	12,530,820	293,713	12,237,107
セグメント利益	794,386	20,865	45,094	860,346	714,839	145,506

(注) 1. セグメント利益の調整額 714,839千円には、セグメント間取引消去856千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 715,696千円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない「全社資産」において、売却予定の土地及び建物・構築物等につき減損損失72,530千円を計上している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失()及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失()	1円08銭	6円09銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	27,126	153,275
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	27,126	153,275
普通株式の期中平均株式数(株)	25,151,679	25,151,519

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

日本リーテック株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田島 祥朗 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 斉藤 直樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本リーテック株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本リーテック株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。